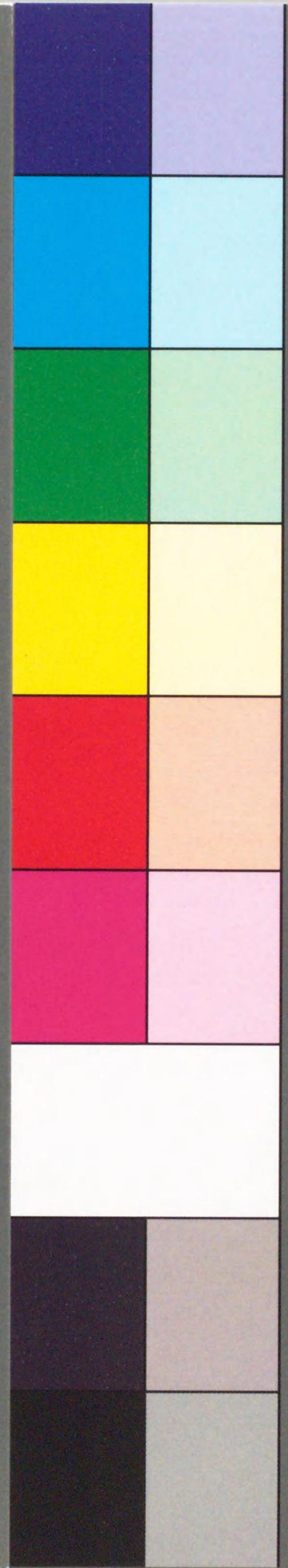


Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak

昭 9 A 1579 殖產局出版第六二〇號

昭和 9 年 5 月 10 日

本誌發行所 敬寄贈

臺灣の柑橘産業



昭 9 A 1579

臺灣總督府殖產局

DM227

17

昭9
A
1579



臺灣の柑橘産業

目次

一、沿革……………	一
二、栽培状況……………	五
(一) 種類……………	五
(二) 栽培管理及種苗……………	八
(三) 主要産地……………	二
(四) 柑橘園の收支……………	二
三、取引事情……………	一五
(一) 販賣方法と共同出荷……………	一五
(二) 仕向地……………	一八
(三) 貯藏荷造及輸送……………	二〇
四、植物検査……………	二二

735372

五、獎勵施設……………二三

(一) 柑橘獎勵……………二三

(二) 試験研究機關……………二六

六、柑橘産業の將來……………二六

一、沿革

本島に於ける柑橘栽培の歴史は頗る古く之を文獻に徴するに、臺南州曾文郡麻豆街の麻豆文旦ブンタンは康熙四十年即ち今を距る二百二十餘年前に栽培せられ、臺北州新莊郡鶯洲庄に於ける和尚洲蜜柑と稱せらるゝ桶柑ツケカンは乾隆五十年の頃即ち今を距る百三十餘年前より栽培せられたりと云ふ。斯くの如く本島に於ける柑橘栽培の歴史は頗る古しと雖も、領臺當時迄は地方的消費に充てらるゝ外僅かに對岸支那へ輸出されたるのみ。而して當時に於ける主産地及主要品種は臺中州員林地方の椏柑ボシカン、臺北州和尚洲地方の桶柑ツケカン、臺南州麻豆地方の文旦ブンタン、同州西螺地方の斗柚ツボ等なりき。

領臺當時に於ける栽培面積及收穫高は詳ならず、柑橘統計の始めて行はれたる明治四十二年に於ては面積七百五十四甲、收穫高四百七十二萬五千斤、生産價額十八萬六千餘圓に過ぎざりしが、昭和六年に於ては面積三千九百二十六甲、收穫高四千九百九十二萬一千九百斤、生産價額百三十七萬二千九百圓の巨額に達するに至り、更に昭和三年度より十二箇年の計畫を以て柑橘獎勵事業の實施に依り今後本島

柑橘の産額は著しき発展を見るに至るべし。今明治四十二年より昭和六年に至る累年生産統計を掲ぐれば左の如し。

柑橘類生産累年表

年次	栽培樹數	見積面積	生産高	生産價額
明治四十二年	三四三、〇八六 ^本	七五、〇〇〇 ^甲	四七五、三四二 ^斤	一八六、七四九 ^円
同四十四年	三九七、七五九	八六、〇〇〇	六二四、二二六	三〇七、七四〇
同四十四年	四三三、四三六	九八、〇〇〇	六二八、七八四	三五三、七八六
大正元年	四八六、四八〇	一〇五、〇〇〇	四一六、二八三	二八、一〇四
同二年	四九四、〇〇五	一〇九、〇〇〇	六三七、〇〇七	四七、七三七
同三年	五二七、一六八	一一六、〇〇〇	五六六、四五四	三〇七、七二五
同四年	五四一、三〇〇	一二八、〇〇〇	六四六、九七三	三四七、〇〇六
同五年	六〇〇、七八六	一四六、〇〇〇	九九六、一五三	四三六、二九二
同六年	七五八、〇〇七	一五五、〇〇〇	九九八、一三八	五〇四、六三四
同七年	八二九、八九九	一七八、〇〇〇	一〇六五、一五〇	七五五、六二五
同八年	八六九、三三七	一九〇、〇〇〇	九六三、三三三	九四二、〇七九
同九年	九九四、一九二	二二五、〇〇〇	一一二、二八八	九五四、七七七
同十年	九〇〇、五二二	一九七、七〇〇	一三五、六一八	九〇〇、八四〇

同十一年	一、〇四五、三〇〇	二二〇、〇〇〇	一四九、九五九	一、〇七七、四九六
同十二年	一、〇六九、七四二	二二八、九〇〇	二二、五四六、六六八	一、三六九、四七七
同十三年	一一五〇、一六四	二二七、七〇〇	二二、四五、四九一	一、三九八、七三四
同十四年	一、二六九、六九九	二八二、三〇〇	三三、三三、六〇五	一、五八一、五九九
昭和元年	一、三三六、三三三	二九六、〇〇〇	二四、〇九七、六三三	一、六三〇、七四八
同二年	一、四〇八、〇九九	三三三、〇〇〇	二八、六〇四、七〇八	一、六五八、二二五
同三年	一、五〇〇、二六一	二八九、九五六	三、六五一、三七八	一、九二八、七〇〇
同四年	一、六九七、〇九七	三二七、六六八	三四、二六六、八〇三	一、八九三、二二一
同五年	一、八六八、一四四	三三四、〇七〇	三六、〇一四、七九〇	一、四二〇、〇六六
同六年	二、〇九七、四三二	三九六、四四五	四二、九二二、九一八	一、三三三、八六八

備考 昭和二年迄は見積面積なりしも昭和三年より栽培面積に改む

輸移出高は明治四十二年に於ては數量五千三百九十二斤、價額僅かに二百五十餘圓に過ぎざりしが、爾來年を逐ふて漸増し昭和六年に於ては四百三十萬斤、價額四十二萬二千圓に激増するに至れり。而して主として輸移出せらるゝは椪柑にして斗柚及文旦はその數量稍劣る。累年輸移出高左の如し。

柑橘類輸移出高累年表

年次	輸出		移入		輸移出合計	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
明治四十二年	三五二斤	一六三	一八八〇斤	九四〇	二三三二斤	一,一〇一
同四十四年	二〇八	一一	三八四〇〇	一,五五四	四〇四八二	一,六六六
同四十四年	二,三〇〇	九八	九八七〇〇	三,三三三	一〇一,〇一〇	三,四六一
大正元年	六九八	六一	七二七〇	二,九七八	七三,五六八	三,〇四三
同二年	一,二四五	七〇	七五七三〇	三,八五二	七六,九七五	三,九二二
同三年	三,五八二	三九	七八〇二六	三,八七五	八二,六〇八	四,一〇四
同四年	一一三	一一	一一七,一八三	五,一一三	一一七,三〇五	五,一四四
同五年	一一,七三四	五三	五八四,五四七	三〇,二八七	五九六,二八一	三〇,八五〇
同六年	三五,一一〇	一四七	一,〇五五,〇〇〇	四七,九四九	一,〇七〇,六一〇	四九,四二四
同七年	一一七,三四八	五七	八〇四,七七〇	四四,一五九	九三,一一八	四九,八三六
同八年	六九,二三四	五九	七五四,五五六	七,一七一	八三,八二〇	七七,〇六六
同九年	九,一二七	五三	三九七,三五〇	三九,六二三	四〇,四七八	四〇,一四六
同十年	二,八六九	三三	五九七,六九一	九五,二二五	六〇,五六九	九五,三五六
同十一年	三三,三一九	二五	一八三,三五〇	三三,一三五	一八六,八一九	三三,七二五
同十二年	一七,六三四	二〇	一七二,三三五	二二,一〇〇	一九四,九四九	二四,四一八
同十三年	一八,八二六	一四	一,一〇〇,九五〇	一八四,五二四	一,二八七,七六六	一九八,六二七
同十四年	一一,四九四	八	一,三八一,三四〇	二四,二五〇	二,五〇〇,七七七	三三八,五四一

年次	輸出		移入		輸移出合計	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
昭和元年	二,一四七	一九七	一,五六五	一九〇	三,七一三	三九七
同二年	一,三九二	一一九	二,一六八	二七九	三,五六〇	三九二
同三年	二,四一八	一七三	二,二九三	二六四	四,七一一	四九〇
同四年	二,四七五	一九八	二,三六〇	二六四	四,八三五	四九三
同五年	二,〇四三	一六一	二,七七一	二九二	四,八二〇	四九五
同六年	一,三三八	八六	二,九七二	三五六	四,三〇〇	四三三

一、栽培狀況
(一) 種類

本島産柑橘類は其の種類頗る多しと雖も品質優良にして生産高多く、而も將來に於て最も有望なるは椪柑、桶柑、雪柑、文旦、斗柚及白柚の六種なり。但しレモン、グレープフルーツ及温州蜜柑亦本島の氣候風土に適するが故に將來有望なる品種なり、是等主要品種の性状を記載すれば左の如し。

椪柑—本種は臺灣蜜柑の代表的品種にして風味卓越し其名高く、産額亦柑橘類中第一位を占む、椪柑は凸柑の意にして果實の上部に突起あるに依り此の名あり。果實は十一月下旬より成熟す。形状には長圓又は扁圓の二系統あるも長圓を良し

とせらる。果皮は濃橙色、果肉は鮮かなる赤黄色にして甘味多く、漿液に富むも、果皮脆弱なるに依り取扱に當り損傷し易し。一顆の重量普通四、五十匁にして一本當約三十五斤を生産す。

桶柑—本種は貯藏の際桶を使用せしにより此名ありと云はれ二種の系統あり一は普通の桶柑にして他は高橋桶柑なり。高橋桶柑は臺北州鷺洲庄を主産地とし普通の桶柑に比し形状大にして極柑に亞ぐ優良種なり。桶柑は四月頃迄樹上に置くことを得。果實は殆ど球形、果面濃橙紅色にして稍黒味を帯び粗糲、果皮は厚くして堅く、輸送に堪ゆるの特點あり、果肉柔軟多汁なれども甘味は極柑に比し稍劣る、一顆の重量三十六匁内外なり。

雪柑—内地の金九年母と同種にして樹性果實ともネーヴル、オレンジに酷似し、十二月頃成熟す、果形殆ど球形、淡黄色にして一顆の重量四十匁内外、表皮滑澤なれども手を以て剥皮すること困難にして刃物を用ふる要あるに依り『庖丁蜜柑』とも稱す。多漿にして甘味強くネーヴル、オレンジに類する風味あり芳香に富む。

文旦—本種の果形は梨形にして果梗部尖り、九月中旬に成熟し、一顆の重量百匁内外、果皮は餡色を呈す。甘酸相和し、一般に頗る珍重せらる。

斗柚類—本島産斗柚類中主なるものは白柚、烏葉柚及石頭柚なり。

白柚—本島斗柚中の最優品にして其名最も高し、果實は多く扁圓にして、果皮は黄綠色を呈し、果肉白色にして微に綠色を帯び、柔軟多汁、甘味多く、酸苦味適度にして食味爽快、殆んど飽くことを知らざる優品なり。一顆の重量四百五十匁内外、熟期は十二月中旬とす、未だ其産額多からず。

烏葉柚—果實の形状は尖長圓にして、色淡黄、果肉は紫紅色にして風味佳良、一顆の重量三百八十匁内外、十月初旬に成熟す。

石頭柚—果形は大にして圓形、果肉は淡紫色を呈し、柔軟且多汁にして少しく酸味あり、一顆の重量六百匁に上る。

各種類の生産高を掲ぐれば左の如し。

昭和六年種類別柑橘生産高

州廳名	種	柑	桶	柑	雪	柑	文	旦	斗	柚	白	柚	柑其他の橘	計
新 臺	北	一、四八四、九〇〇 斤	六、八二〇、五〇〇 斤	八、三三二、四〇〇 斤	一、六四三、三〇〇 斤	五、一一一、三〇〇 斤	六、六二二、三〇〇 斤	三、三〇〇、〇〇〇 斤	一〇、二二一、〇〇〇 斤	一、七八二、七五〇 斤	一、七八二、七五〇 斤	一、七八二、七五〇 斤	一、七八二、七五〇 斤	一、七八二、七五〇 斤
新 竹		一〇、三二四、一六三 斤	四、五八八、三三七 斤	七、三九七 斤	一、七三三 斤	二、二四九、九七五 斤	四、六〇〇 斤	五、一六四、九 斤	一、七八二、七五〇 斤	一、七八二、七五〇 斤	一、七八二、七五〇 斤	一、七八二、七五〇 斤	一、七八二、七五〇 斤	

計	澎湖	花蓮	臺東	高雄	臺南	臺中
10,519,933	145	67,895	8,440	291,948	385,871	8,071,256
11,660,614	305	167,750	3,470	759,5	1,160	63,907
11,880,005	—	57,018	69,818	1,239,3	75,143	1,898
11,375,07	—	1,790	1,375	242,08	1,022,90	62,522
4,764,451	—	26,105	86,080	3,363	1,366,648	33,170
400,391	—	14,945	—	74,597	119,101	7,338
11,669,556	588	36,785	5,100	3,554	1,045,5	1,067,49
41,921,918	1,038	604,198	17,283	676,66	3,121,018	9,387,90

(二) 栽培管理及種苗

本島に於ける柑橘園は新竹州下一圓、臺中州下南投郡、臺北州下宜蘭及淡水二郡の如く傾斜地に栽培するものと、臺北州下鶯洲庄、臺中州下員林、豐原地方に於けるが如く低地栽培を爲すものとあり、傾斜地に於ては結果最盛期に達する期間低地に比し長しと雖も、盛果樹齡長きと土地を經濟的に最も有利に利用し得る特點あるのみならず、柑橘栽培適地の大部分は傾斜地なるに依り、主として同方面に奨励せんとす。

經營面積は單獨にて七、八甲歩の大面積を經營するもの無きにあらざるも全島

的に之を見れば三分内外の小面積經營者最も多し。

傾斜地に新に柑橘園を開設せんとするには前年秋冬の候開墾を行ひ、適當の階段畑とし之に綠肥を鋤込み、十二月より二月上旬迄の間に豫め養成せる苗を移植す、栽植の距離は蜜柑類は列間十五尺、株間十二尺(甲當六百本)文旦及斗柚類は列間二十尺、株間二十尺(甲當三百本)を適當とすれども低地栽培の多くは、密植せるもの多く、又傾斜地栽培のものに於ても剪定整枝を怠るがため樹枝相重り日光の透射空氣の流通充分ならず、従つて收量少く病害蟲の發生を容易ならしむるの憾あり。

柑橘園の壽命は一概に云ふこと能はざれども低地に於ては植付後九、十年目より盛果期に達するも十五、六年に至れば衰弱するを例とす。之に反し傾斜地に栽培せるものは植付後十三、四年より盛果期に達し施肥、管理宜しきを得るに於ては植付後二十數年を経過するも尙盛果期を持續し得べし。

肥料は樹齡、土壤の肥瘠、品種、生産高等に依り異り、又肥料の種類に依り品質に影響すること大なるに依り頗る注意を要すれども、本島に於ては一般に人糞尿、豚糞を施用するがため果實の外観食味共に劣るの嫌あり。然れども近時肥料成分の配合に注意し大豆粕、過磷酸石灰、魚肥等の人造肥料を施用するもの稍増加するの傾

向あり。

耕耘及除草は斯業の最も進歩發達せる新竹、臺中兩州下は頗る行き届き居れども、其の他の地方は顧みられざる状態にあり。中耕は春夏秋冬各一回、除草は雜草發生の度に應じて行ふ。又剪定及整枝の如き頗る必要なれども本島に於ては未だ殆んど省みられざるの實狀にあり。

間作は果樹幼若なる間甘藷、落花生等を栽培するを普通とすれども、栽植後五、六年を経過すれば一般に間作せず、又綠肥作は雜草の繁茂を防ぐと共に表土の流失を防ぎ有機質成分を附與するの得點あるに係らず未だ之を栽培するもの少し。

本島は氣候温暖多濕なるがため、昆蟲及微生物發育し易く、柑橘類の被害甚だ多し。然れ共本島農民は是等病害蟲に關する知識少きがため、防除を怠り省みるもの少き状態なるに依り、當局に於ては各種の方法を以て、之に關する知識の普及と防除の勵行に努めつゝあり。

種苗—柑橘類の苗は砧木を養成し之に接木を爲して養成す。蜜柑類の砧木として用ひらるゝは枳殼及酸橘の二種にして文旦及斗柚類の砧木として用ひらるゝは時柚を普通とす、砧木は滿一、二年苗床に養成したる後接木を行ふものにして其

の活著歩合は六、七割を普通とす、斯くて二、三年間更に苗床に養成したる後本圃に移植す。又白柚及文旦の如きは取木法に依り繁殖を爲すことあれども近時其の法廣く行はれず多くは接木法に依る。

柑橘栽培の盛んなるに連れ島内生産の種苗は其の數量少く而も高價なるがため年々對岸支那より種苗の輸入を見、近年に到り年々數十萬本を輸入せらるゝに到れり。而して是等輸入種苗は何れも品種の系統不明にして雜駁不良なるのみならず、各種病菌害蟲の附着する患あり、本島柑橘産業の發展を阻害する懼れあるに拘らず、一般農民は其の價格の低廉なるがため之に迷はされ、是等の輸入苗を栽植するもの多く其の輸入年々増加の趨勢にありたり、之に依り督府は是等不良種苗の輸入を防遏すると共に健全優良なる種苗の普及を圖らんがため、昭和三年度より柑橘種苗の養成配付のため、各地方廳又は農會に對し之が補助金を下付しつゝあり。

(三) 主要産地

本島蜜柑類の代表的優良品種たる椪柑は臺中州下員林及新竹州下新埔最も著名なり、由來椪柑は本島柑橘類中其の生産高最も多く、昭和六年に於ては總生産高

の四九%を占めたり。

又晩生種として有名なる桶柑ツツカンの主産地は臺北州鷺洲庄及新竹州下龜山庄にして柑橘全生産高に對し二七八%を産す。

又雪柑セツカンは臺北州鷺洲庄を主産地とするも、近時其の生産高漸減し全生産高に對し僅かに二七%を産するに過ぎず。

文旦ブンタンは臺南州麻豆地方産最も著名にして全生産高に對する割合は五%なり。

斗柚トウユは臺南州西螺及新竹州下一圓を特産地とし生産歩合は一一%に達す。

斗柚類中の最優品として特に著名なる白柚ハイユは臺南州麻豆地方を特産地とす、未だ生産高多からずと雖漸次各地方に普及しつつあり。

而して昭和四年に於ける全島各地の柑橘生産歩合を見るに、最多なるは新竹州にして四二%、臺北州の二四%、臺中州の二二%、臺南州の七%、高雄州の一六%、花蓮港廳の一四%、臺東廳は〇四%に満たず。

(四) 柑橘園の收支

柑橘園の收支は樹種、土壤の肥瘠、栽培管理、經營の如何等に依り異なるが故に概言する事困難なれども、一般に低地は栽植後收穫盛期に達すること早きが故に利益

を収むること早けれども、低地は排水の不良なると根部寄生菌のため十五、六年に至れば衰弱するに至る、之に反し傾斜地に於ては栽植後七、八年を経過するにあらざれば利益を見る能はざれども十二、三年目より盛果期に達し二十年に至るも、尙樹勢衰へざるに依り結局採算上傾斜地に栽培するを有利とす、殊に本島、中北部には柑橘の栽培に適したる傾斜地の面積多きに依り今後特に是等の方面に奨勵せんとす。

今傾斜地栽培極柑の甲當收支を見るに、栽植初年に於ては開墾、整地、苗木其他開園に要する費用を合せ約三百六、七十圓を要し、其後五年迄年額平均三百三十圓の經費を要するも、收穫又少く利益を擧ぐる能はず、然れどもそれより以後十一年に至れば全投下費用を償却し、四百餘圓の利益を収め、以後毎年五、六百餘圓の純益を収むるを得べく、此の収益は栽植後二十數年迄は繼續して有利なる經營を爲し得べし。

今其の收支概要を示せば左の如し。

柑橘園栽培收支概算

(新竹州農會調
査、中園一甲當)

年別	支	出	收	入	收穫	高	差引(損益)	損益累計
第一		三六八・二九〇					△	
第二		二九一・五四〇					△	六五九・七三〇
第三		二六九・〇九〇					△	九八八・二〇〇
第四		三三〇・四四〇	六七・二〇〇		一一三〇		△	一、一九二・〇六〇
第五		三三〇・〇七〇	二〇一・六〇〇		三三六〇		△	一、三三二・五五〇
第六		四三三・二〇〇	三〇二・四〇〇		五、〇四〇		△	一、四五四・二六〇
第七		四六七八・四〇〇	五〇四・〇〇〇		八、四〇〇	益	△	一、四八一・〇〇〇
第八		四六七九・七〇〇	六七二・〇〇〇		一一、一〇〇		△	一、二三四・〇七〇
第九		四六七九・八〇〇	八四〇・〇〇〇		一四、〇〇〇		△	八四二・〇五〇
第十		四六七九・八〇〇	一、〇〇八・〇〇〇		一六、八〇〇		益	三三四・〇三〇
第十一年		五七〇・〇八〇	一、〇〇八・〇〇〇		一六、八〇〇			一、五八九・〇〇〇
第十二		五七〇・四三〇	一、〇七五・二〇〇		一七、九二〇			六四〇・六六〇
第十三		五七〇・四三〇	一、〇七五・二〇〇		一七、九二〇			一、一四五・四一〇
第十四		五七〇・四三〇	一、一七六・〇〇〇		一九、六〇〇			一、七五〇・九六〇
第十五		五七〇・四三〇	一、一七六・〇〇〇		一九、六〇〇			二、三三六・五一〇
第十六		五七〇・四三〇	一、一七六・〇〇〇		一九、六〇〇			二、九二二・〇六〇

年別	支	出	平均	一箇年	當計	平均	一箇年	當計
第十七		五七〇・四三〇			一、一七六・〇〇〇			三、五七六・一〇〇
第十八		五七〇・四三〇			一、一七六・〇〇〇			四、一七三・一六〇
第十九		五七〇・四三〇			一、一七六・〇〇〇			四、七七八・七一〇
第二十		五七〇・四三〇			一、一七六・〇〇〇			五、三五四・二六〇
合計		九六〇一・三四〇			一、四九五・六〇〇			五、三八四・二六〇
平均		四八〇・〇六七			七四九・二八〇			二、六九二・二一〇

備考 (一)價格は百斤當六圓の産地相場とせり。(二)△印は損を示す。

以上の如く産地に於ける相場を極柑百斤六圓とするも尙相當の利益を收むるを以て傾斜地利用作物として有利なる事業と云ふを得べし。

前述の如く産地相場は相當低廉なるに拘らず、市場商品の價格法外に高價なるは輸送腐敗等は固より仲間商人に利益を壟斷せらるゝ結果なり。故に將來是等の方面に向つて之が改善を行ふの要あり。

三、取引事情

(一) 販賣方法と共同出荷

本島に於ける柑橘類の販賣方法は、大別して左の四種となすを得べし。

- 一、果園のまゝ産額見込を以て仲買又は小賣商人に販賣するもの
- 二、生産者採收の上圃場に於て仲買又は小賣商人に販賣するもの
- 三、生産者より直接市場問屋に輸送し委託販賣を爲すもの
- 四、生産者組合を組織し此の機關に依り共同販賣するもの

右の内弊害最も大なるは第一の立木賣にして此の方法は樹勢を傷むるは勿論取引方法に迂遠なる農民は小賣又は仲買商人に利益を壟斷せらるゝ等の不利あり、而も本島柑橘販賣の大部は此の方法に依り行はれつゝあり。

第二―生産者が採收の上圃場にて小賣人又は仲買人に販賣する方法は取引上弱者の地位にあり、仲買人又は小賣人に利益を壟斷せらるゝこと多し。

第三―生産者自ら市場に出荷販賣する方法は、前記各種の方法に比し稍合理的に販賣せらるゝと雖も、遠隔の地に出荷する場合には問屋の奸策に弄せられ、又價格の變動に依り思はざる損失を招くことあるに依り、信用ある問屋を選択し取引の連絡を圖るにあらざれば實行し難く、従つて現在此の方法に依る販賣は極めて稀れなり。

第四―生産者が共同して組合を組織し、大量の生産物を選果、等級分けを行ひ販

賣する方法は最も理想的販賣方法なるが故に當局に於ては數年來共同出荷機關の設立を奨励助成し來りたるため近時臺中、新竹兩州下に於て左の如き出荷團體の設立を見るに至れり。

名	稱	所	在	地	組	織	別
員林柑橘西瓜同業組合		臺中州員林郡員林街			同業組合		
永靖信用販賣購買利用組合		同	永靖庄		産業組合		
新埔信用販賣購買利用組合		新竹州新竹郡新埔庄			同		
石光信用販賣購買組合		同	關西庄		同		
新竹州柑橘販賣聯合會		新竹州廳内			任意組合		
新竹移出柑橘出荷組合		新竹市東門外			同		
龜山柑橘改良組合		新竹州桃園郡龜山庄			同		

右組合中員林柑橘西瓜同業組合及新竹移出柑橘出荷組合は仲買商人を以て組織せるものにして殘餘は皆何れも生産者のみを以て成る出荷機關たり、各組合も成立後日尙淺く取扱數量少く成績の特に著はれたるもの少しと雖も今後斯業の發展に伴ひ斯種機關の活動を奨励し以て柑橘販賣方法の改善を促進し無用の

仲間機關を排除し農家の手取金を多からしむると共に低廉なる價格を以て消費者に供給せざるべからず。

(二) 仕 向 地

從來本島産柑橘類は主として内地市場に移出せられ輸出高頗る少額なりしが、近時内地に於ける植物検査の實施と、島内産額の増加に伴ひ、海外輸出高漸く増加するの趨勢にあり。

而して内地に於ける仕向先は神戸、門司及東京最も多く、輸出仕向先は關東州第一位を占め、香港、支那之に亞ぐ、而して移出品は内地移入港に於て繁雜なる二重検査を経ざるべからざるに依り、今後滿鮮、シベリヤを主とし更に南洋各地に販路の擴張を圖るの要あり。

殊に是等の地方には年々柑橘類の輸入せらるゝもの多額に上るを以て今後是等の方面に進出すべき餘地頗る大なるべし。

今最近五箇年間に於ける輸移出柑橘類仕向地を表掲すれば左の如し。

最近五箇年間柑橘類移出主要仕向地別表

仕 向 先	昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年
下 關	三、一八九 <small>四</small>	一、九	一、四八 <small>四</small>	一、〇六 <small>四</small>	六、四
神 戸	二〇二、三三八	一七〇、八九七	一四〇、〇八二	一四八、四四四	一三三、二五一
門 司	四九、五一〇	五四、六五四	六二、五五五	七〇、九二九	五七、七八六
東 京	六五、三九四	四九、八八九	三九、五七七	三二、四五〇	三八、〇一七
横 濱	五、六八三	五、五八〇	五、八〇三	三、七九一	五、四六九
大 阪	二二三	一、四六	三、六四九	二、五四	二、三八六
名 屋	六〇九	二	一、四四	七、一〇〇	六、五七八
朝 古	八七七八	一〇、九五九	一一、四四四	三、九一〇	六、〇六三
其 他 (内地)	五二	二四〇	二、六八	四〇〇	八七
計	三五、六六五	二九、二九四	二六、四九〇	二六、四八四	二七、九七一

最近五箇年間柑橘類輸出主要仕向地別表

仕 向 先	昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年
關 東	五〇、二六 <small>四</small>	七二、五五 <small>四</small>	八七、七三 <small>四</small>	六〇、九六 <small>四</small>	三七、六六 <small>四</small>
香 港	一八、二七四	四、四四八	六、四四九	九三、九〇七	五四、二四四
支 那	八、七三三	四、一八四	四、六〇二	一、七二四	二〇、五六八
其 他	—	二七九	一、九三	五三五	四六四
計	八六、五九六	一六、〇六五	一、九三七七	一七、五三二	一一、九六二

(三) 貯藏荷造及輸送

前述の如く本島に於ける柑橘販賣方法は殆んど立木賣なるがため果實の貯藏設備全く無く、唯新竹州下竝に臺中州員林地方の一部生産者が住宅の一隅を仕切り或は臨時設備を爲して貯藏するに過ぎず。

斯くの如く貯藏庫を缺くが故に生産時期に於ては果實は一時に市場に殺到し市價の暴落を來し、多大の損失を蒙りつゝあり、故に貯藏庫の設置は市價維持上最も緊切なり。

殊に將來生産増加に伴ひ貯藏庫又は冷蔵装置を設備して、大量生産物を貯藏し市場の需要に應じて自由に販賣する方法を講せざるべからず。
收穫の時期は種類及生産地の氣候に依り異なる、今其の時期を掲ぐれば

種類名	中部			南部		
	月	日	月	月	日	月
柑	十一	月	十二	十一	月	三月
柑	十一	月	十二月	十一	月	二月
旦	八	月	十二月	十一	月	十二月
文	九	月	十二月	十一	月	十二月
斗						
白						

果實の選別は最も肝要なれども農家の多くが立木賣を爲すに依り之を行ふもの殆んど無し。果樹園より自宅又は集散地へ搬出する場合は何れも内面布を裏付けせる竹籠に入れ擔送するを例とす。

移出蜜柑類の荷造は主として麥酒の空箱に粗殼を以て詰め損傷を防ぎ居るに反し輸出するものは何等填充物を入れざるを普通とす。

文旦^{ブンタン}及斗柚^{チホウ}は通常バナ、籠に入れ輸移出せらる、蓋し本島産蜜柑類は其の果皮何れも脆弱にして損傷し易きに依り將來荷造り方法を改善し損傷を防ぐを要す。

摘果は先端圓き摘果鋏を一般に使用す。又摘果後は更に果梗を短かく切り荷造運搬に當り他類を傷くる患無き様注意し居れり。柑橘の輸送は何等特別の設備を有するもの無く通風よく冷涼の場所に積載運輸せらるゝに過ぎず。今後本産業の發展に伴ひ新販路の開拓に連れ遠距離輸送に對する設備を完成するを要す。

四、植物検査

臺灣産柑橘類には蜜柑小實蠅、介殼蟲、黑星病、瘡痂病、潰瘍病の如き病蟲害あるに依り是等の移入は母國柑橘産業の脅威なりとして大正十年臺灣産柑橘類の内地

移入を禁止せんとするに至れり。

然れども翻つて本島より之れを見れば、斯くの如き禁止を見んか、本島斯業の發展に一頓挫を來すことゝなるが故に種々折衝を重ねたる結果大正十年輸出入植物取締法施行規則の發布となり、本規則に依り検査を行ひ之に合格し、検査済證票を添付せるもの限り内地移入港に於て再検査の後移入を許すことゝなれり。

抑も此の二重検査は荷傷み多く、手数を煩雜にして、爲めに商機を失すること多く取引意の如くならず、自然移出數量の制限となり、本産業の發展を阻害すること誠に甚大なり。而して内地に於て最も恐れ居れりと稱せらるゝ蜜柑小實蠅及黒星病菌の如きは學者の説に依れば、兩者とも成育温度に一定の極限あり、南支那及臺灣に於ては生育するも内地に於ては生育し能はずと稱せらる。而も現に過去數十年間本島産柑橘は、内地市場に全く無検査のまゝ年々多量に移出せられたりしにも拘らず、未だ嘗て内地何れの地に於ても蜜柑小實蠅及黒星病の發生せる事實無きは、成育温度に極限あるがため、發育不可能なるの説を證する證左なりと云はざるべからず、而も内地に於ては未だ是等の事實に對し、調査研究完成せられず、爲めに依然として再検査の實施を見るは本島産業發展上誠に遺憾とする所なり。

唯本島柑橘生産者としては圃場に於て徹底的に病菌害虫を防除し、無病健全なる果實の生産に努め移出検査の完全を期し、以て一日も早く内地再検査の撤廢を期せざるべからず。

五、獎勵施設

(一) 柑橘獎勵

督府は昭和三年度より向ふ十二箇年計畫を以て、最適地六千甲を選び柑橘獎勵事業を開始せり。本事業は新植の獎勵既設園の改良を圖り兩者相俟つて本島柑橘生産の増加並に品質の改良を期せんとするものにして、新植の獎勵は各州廳又は農會に對し柑橘種苗養成に要する費用の三分の一を補助し、是等州廳又は農會は三分の二の經費を計上して優良系統の柑橘種苗を養成し之を一般希望者に廉價にて配付栽植せしむるものにして、之に依り品質の改良と増産を圖らんとするにあり。昭和五年度に於ける補助金額並に成績左の如し。

州廳名	豫算配付額	各州廳支出額	種苗配付本數	被配付者數	見積面積
臺北	三七四、〇〇	七〇、八四七、一	高橋桶柑 五、七五三本	二五、一人	一〇〇、八
新竹	一三、一三三、〇〇	二八、四三三、三	高橋桶柑 一〇、一五七〇	一〇、八四	一、三三九
臺中	二、一一一、〇〇	五、三三六、二四	高橋桶柑 七、四三〇	三、七	五、七九
臺南	一、八三一、〇〇	一、七九〇、四〇	文旦 三、七三〇 斗柑 一、九七七 白柚 八、七六六	八、三	三、六二
臺東	三、七五、〇〇	六、三三六、〇	桶柑 一、三六〇 雪柑 九、五七七 文旦 八、三三 斗柑 六、七〇 溫柚 三、五	五、五	九、二
花蓮	四、四〇、〇〇	一、五〇、二六	桶柑 一、〇一〇 計 一、五六一	五、	六、七
計	一〇、七一〇、〇〇	四、八二八、一〇	計 三、六二〇、一	三、〇九二	一、五五六

右に依り見るが如く昭和五年の配付本數は柑類及欖類を合せて三十一萬六千二百二本にして獎勵期間中に豫定面積に達するに至るべし。
 既設園の改良策としては、全島中の特産地十六箇所を選び、模範柑橘園を經營せしめ、之に對し補助金を支出して、一般柑橘栽培者に其の範を示し、以て改良を圖りつゝあり、昭和五年度に於ける箇所數及補助金額左の如し。

州名	箇所數	種類名	補助金額
臺北	五	高橋桶柑	四七、五
新竹	五	桶柑	四七、五
臺中	四	桶柑	四七、五
臺南	四	文旦 斗柑 白柚	三、八〇
臺東	四	文旦 斗柑 白柚	一、九〇
計	一八	(農會直營のもの 二箇所を合せ)	一、五二〇

元來模範柑橘園は栽培管理を合理的に行ひ肥料の種類、配合、施用法、病害蟲の驅除豫防を徹底的に行ふに依り生産果實の品質優良なるのみならず、收穫量多きを來し、爲めに當業者を刺戟啓發し栽培管理の改善に資するところ大なるものあるに至れり。

而して右増産計畫に依る適地六千甲の外、更に中北部に於ける山脚地帯にして經濟上柑橘栽培に有利なる適地更に四千甲歩の多きに達するに依り、將來是等の適地に對し栽植を獎勵するに於ては現在の栽培面積三千甲と合せ、栽培面積一萬三千甲歩、生産高一億九千八百七十五萬四千斤、生産價額千二百十萬五千圓に達するに至るべし。

(二) 試験研究機關

柑橘試験研究機關としては臺北州士林庄に中央研究所士林園藝試験支所あり明治四十一年創立以來、各種園藝作物就中柑橘類の栽培育種等に關する試験研究を爲し、幾多有益なる業績を擧げつゝあり、今後本島斯業の發展に伴ひ、該試験場の研究に負ふ處大なるものあり。

其の他新竹州農會及臺中州に於ては柑橘試験園を設置し、指導獎勵上の試験調査竝に一般當業者の啓發に資し居れり、又病害蟲の防除に就ては特に督府竝に地方當局に於て經費を支出し勵行に努めつゝあり。

右の外各州廳とも品評會講習講話會の開催に依り斯業に對する知識の普及と一般農民の啓發に努めつゝあり。

六、柑橘産業の將來

本島は氣候風土よく柑橘類の生育に好適するを以て、優良なる果實を産し、其の豐醇美味なる他の追隨を許さざるものあり、而も中北部に於ける適地面積一萬三千甲の多きに達す、故に今後栽培方法を改善し、生産費の低減を圖り其の増産に力

め新品種の育成を爲すと共に一方包裝、荷造方法を改良し而して内地再検査の撤廢、取引組織の改善に依り、内地朝鮮は勿論、滿州、シベリヤ等の外國市場に對し臺灣産柑橘發展の餘地大なるものあるが故に今後生産の増加に伴ひ輸出の増進を圖り、我が貿易の振興に資せざるべからず。

昭和七年十月二十二日印刷
昭和七年十月二十五日發行

臺灣總督府殖產局特產課

臺北市八甲町一丁目六番地
印刷人 青木 崑

臺北市八甲町一丁目六番地
印刷所 盛文社

民國二十五年八月二十二日

...

...

